



表 2. 世界保健機関 (WHO) 地域別の、13～15歳の生徒における家庭と家庭以外の場所での受動喫煙への曝露

地域	非喫煙者	
	家庭での受動喫煙への曝露	家庭以外の場所における受動喫煙への曝露
	% (95% CI)	% (95% CI)
東ヨーロッパ	71.5(64.6-76.0)	79.4(73.0-93.7)
西太平洋	57.3(48.5-65.3)	52.6(49.2-56.1)
東南アジア	42.8(35.2-49.7)	38.8(35.9-41.7)
アメリカ諸国	39.1(31.6-47.2)	42.9(39.0-47.0)
東地中海諸国	37.0(33.7-40.4)	38.2(34.2-42.2)

世界青少年たばこ調査、2000～2007年(28)

重要な環境における、受動喫煙への曝露の程度はどれぐらいだろう？

家庭

上述のデータによって示されたように、家庭は子どもがほとんどの時間を過ごし、受動喫煙にさらされる主要な場所であるため、重要な曝露環境といえる。カナダ人間活動パターン調査 (Canadian Human Activity Pattern Survey、CHAPS) により、子どもが喫煙者と接触することが最も多いのは家庭であることが分かった。同様に、カリフォルニア活動パターン調査 (California Activity Pattern Survey、CAPS) は、他の場所と比較して、子どもが喫煙者と過ごす平均時間が一番長いのは家庭であることを示した (7)。2006年公衆衛生総監報告書は、米国では、子どもが受動喫煙にさらされる主要な場所は家庭になったと結論した (3)。

家庭内の受動喫煙の煙濃度を測定するため、数件の研究が実施されている (3)。米国で、喫煙者のいる家庭内のニコチン濃度を測定した研究では、空気中の平均ニコチン濃度が $1 \sim 3 \mu\text{g}/\text{m}^3$ で、範囲は $< 0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ から $8 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であることが認められた (3)。米国の別の研究では、個人モニタリ

ングを利用して個人が家庭、職場、その他の公共の場所で受ける曝露を週を通して測定した。この研究では、喫煙者と結婚した非喫煙者の平均ニコチン濃度が、非喫煙者と結婚した非喫煙者における平均ニコチン濃度よりもかなり高いことが認められた ($3.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ と $1.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$) (30,31)。かなりの割合の子どもが家庭で受動喫煙に曝露していること、および喫煙者のいる家庭内で認められたニコチン濃度から、子どもの健康を守るために家庭から喫煙をなくす必要性が明らかとなった。

